

ケアマネジャーの皆さんに仕事を通じて感じていることを聞いてみました

Q1

この仕事について「やりがい」を感じる時はいつですか？

- ▶介護保険サービスの利用により利用者の心身状態が改善し、生きがいや意欲が持てるようになった時
- ▶利用者や家族との対話を通じて信頼関係が築けたと思えた時
- ▶利用者や家族から感謝の言葉をいただいた時
- ▶本人や家族の喜ぶ姿を見られた時



*写真は、市内ケアマネジャー事業所のリーダーである「主任ケアマネジャー」の皆さんです

Q2

「苦勞している」「大変だな」と感じることはどんなことですか？

- ▶医療や介護に関する幅広い知識と役割を求められること
- ▶ひとり暮らし高齢者が増え、見守りや自宅訪問の頻度が多くなっている。親族がいない、または遠方に住んでいる場合も多く、連絡や調整に苦勞している
- ▶利用者と家族の考え方が違い、暮らしの環境や病気の状況も一人一人違うため、その人（そのお宅）の状況に合わせた支援を工夫すること



Q3

印象に残っているエピソードがあったら教えてください。

●訪問入浴と笑顔

インフルエンザにかかり、起き上がることが難しくなった男性Aさん。お風呂へ入りたいと希望され、家族もその希望を叶えたいと「訪問入浴サービス」を利用。当日は、親族、孫、ひ孫まで集まり、入浴する満足そうなAさんを見て、「じいじ、気持ちいいね〜」と声があがり、その場に笑顔があふれた。小さな喜びの瞬間に立ち会うことができ、とても幸せな気持ちになった。

●希望をかなえる

「自宅の畳の上で死にたい」という80代一人暮らしの女性Bさんと県外に住む娘さん。コロナ禍で行き来がままならない状況だったが、ケアマネジャーがメールの作成を手伝うことで、お互いの近況を報告し合うことができた。介護サービス提供事業者や医療関係者の支援もあり、Bさんと家族の希望どおり、自宅での看取りができた。

●残された時間を大切に

脳腫瘍で余命6カ月と宣告された男性Cさん。徐々に歩くことができなくなったが、妻は「散歩が好きだった夫のため、外の風景を見せてあげたい」と車いすに乗せてよく出かけていた。会話ができなくなってからも、最後まで夫に真摯に寄り添う妻の姿に心を打たれた。看取り後に「悔いは一つもありません。できることは全てしました」と、晴れやかに天を仰いだ妻の顔が忘れられない。



Q4

市民の皆さんに伝えたいことはありますか？

☆ひとりひとりの望む生き方を大切にします

その人が人生の中で築いてきた暮らしや思いを大切に、本人や家族に寄り添っていきます。皆さんの希望を踏まえつつ、公正中立な立場で支援させていただきます。

☆悩みやストレスをひとりで抱え込まないで！

介護に関する困りごとは各家庭によって異なります。ある人にとっては小さなことでも、別の人にとっては大きな問題かもしれません。迷いや不安がありましたら、身近なケアマネジャーやお近くの地域包括支援センターにご相談ください。介護の専門家に相談することが、解決に向けた第一歩になりますよ。

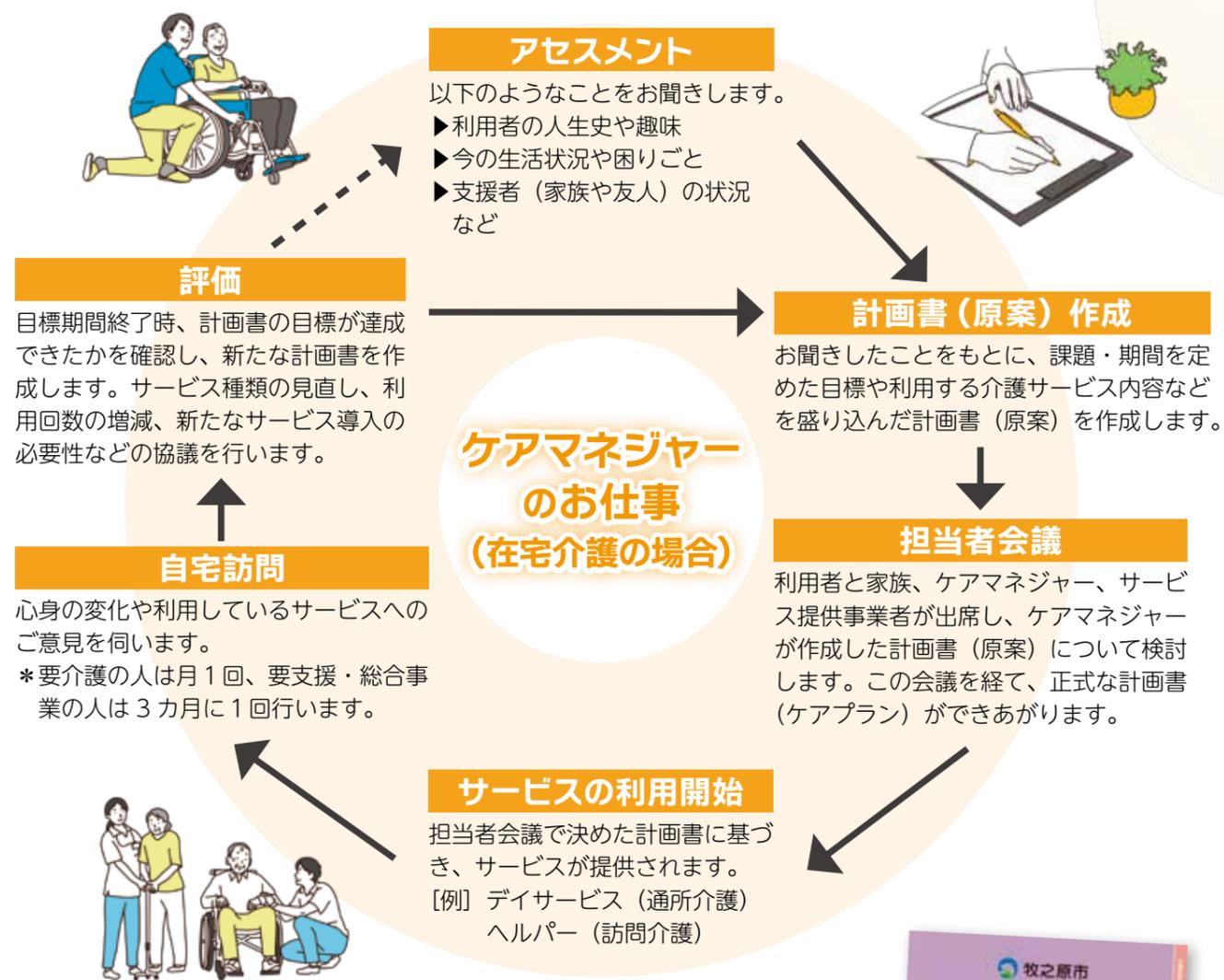


介護保険サービス利用者と
家族の心強い味方！

ケアマネジャー

介護保険サービスの利用に欠かせない専門家として「介護支援専門員（ケアマネジャー）」がいます。在宅で生活する人、施設で生活する人など、牧之原市で介護保険サービスを利用する人には、必ずケアマネジャーがついています。介護を受ける人やその家族にとって一番身近な「介護の専門家」であるケアマネジャーの仕事についてご紹介します。

問い合わせ 長寿介護課 大畑拓也 ☎0076



市内のケアマネジャー事業所一覧

市内のケアマネジャー事業所は「介護保険ガイドブック」で確認できます。ガイドブックは、さざんか（長寿介護課）と市役所相良庁舎（市民課）で配布しています。また、右のQRコードを読み取ると、PDFファイルで見ることができます。

